

技術・家庭科（技術分野）における学び続ける子どもの育成

昨年度の本稿で、改正教育基本法17条に新しく定められた教育振興基本計画第2期分（平成25～29年度）が進行しており、その前文の第1番目に「今正に我が国に求められているもの、それは「自立・協働・創造、に向けた一人一人の主体的な学び」であるとして、「自立」、「協働」、「創造」の3つの理念が示されていること。この理念の一つである、「創造」についてみると、「自立・協働を通じて更なる新たな価値を創造していくことのできる生涯学習社会」とあり、主として高等教育段階の取組であるが、「知識を基盤とした自立、協働、創造の社会モデル実現に向けて、「生きる力」の基礎に立ち、生涯にわたり学び続け、主体的に考え、どんな状況にも対応できる課題探求能力を有する多様な人材を育成する」としていること。すなわち、これまでは、学校教育で身につけた知識・技能等でその後の社会生活が乗り切れる時代であったが、現在は、社会の変化が激しく、学んだことが急速に時代遅れで役立たなくなる。このため、変化に対応した新たな価値の創造や生涯にわたり学び続けることが必要な社会となり、このような人づくりが学校教育に求められていることなどを紹介した。

今回は、この教育改革の内容に関連し、新たにイノベーションについて紹介したい。広辞苑によれば、イノベーションとは「①刷新。新機軸。②生産技術の革新だけでなく、新商品の導入、新市場・新資源の開拓、新しい経営組織の実現などを含む概念。シュンペーターが用いた。日本では技術革新という狭い意味に用いることが多い」とされている。今、イノベーションの重要性が盛んに叫ばれている。教育の世界では、広辞苑のいう技術革新といった狭い意味ではなく、「新たな価値を創造する」という広範囲な意味で用いられることが多い。このことは、先に紹介した教育振興基本計画の内容からも読み取ることができる。つまり、教育には、これからの変化の激しい時代を生き抜く、新たな価値を創造する人材育成が求められる訳である。

一方、附属中学校技術・家庭科では、「よりよい生活を目指して工夫し創造する技術・家庭科学習—生活の中の課題を多面的にとらえ、解決する力の育成を通して—」として、様々な取組が行われている。その一つとして、多面的に課題をとらえ自分の問いをもち、追求する力を高めるため、DL材を活用した踏み台等の設計・製作が行われている。これは、丈夫さ、軽さ、作りやすさなどから踏み台の構造をみることで、多面的に課題をとらえるとともに、生徒一人一人が、問いを繰り返しながら課題を追求し、解決を図るものである。実践の結果、「解決したい問題があるとき、その解決方法を自分なりに考えようとしていますか」とする問に対する肯定的な回答が増えるなど、研究主題に対する成果が確認されている。これは、まさに新たな価値を生み出す人材育成であり、イノベーションそのものであると考える。

現行学習指導要領技術・家庭科の目標は「生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。」である。ここに記された「創造」という文字は、現代社会に求められているイノベーションを家庭生活や社会生活で実践することに他ならない。技術・家庭科が、教育振興基本計画の趣旨を受け、さらに時代に求められるイノベーションへの期待に応えられるよう、内容の充実が叫ばれる中で、島根大学附属中学校技術・家庭科技術分野の実践は、そのさきがけになると考える。

（共同研究者：島根大学教育学部人間生活環境教育講座、橋爪 一治）